

## 式辞（1学期終業式）

本日で1学期が終わります。皆さんにとって、どんな1学期だったでしょうか。

4月の始業式以来、校舎は管理棟の水の復旧、登校坂の舗装など、僅かずつではありますが、修繕がなされてきています。今、県には教室棟の水の復旧を強く要望しているところであります。まずはそれが一番重要であると考えています。その次は体育施設の修理のための調査が始まる予定です。皆さんには大変不便をかけ、申し訳ありませんが、御理解ください。

ところで、県総体前の壮行式で、私は「地震を言い訳にせず、頑張ってもらいたい」と、お話をしましたが、それをケーブルテレビで御覧になった市民の方から「校長先生は良いことをおっしゃっていた」とお褒めいただきました。それが良かったのかどうか分かりませんが、WL部・女子ソフトテニス部・相撲部で上位入賞や上位大会進出がありました。また、野球部も2回勝ち、明後日の3回戦に駒を進めました。これらの活躍は学校や地域の皆様方に元気と勇気をもたらします。周囲の方々の御期待に応えてくれた皆さんに敬意を表します。

さて、昨年の1学期終業式では「戦力の逐次投入」は良くない戦い方だとお話ししましたが、2、3年生は覚えているでしょうか。最初から全力で努力するよう期待しています。

というのは、日本人は平和ボケをしているため、戦乱に巻き込まれている人々と比べ、必死に努力できていない傾向にあります。例えるなら、ただ何気なく、或いはいやいや勉強や仕事をし、失敗してから後悔するといった「後悔、先に立たず」型の人間や、失敗してもそこから学ぼうとせず、何度も失敗を繰り返す「後悔、後を絶たず」型の人間などです。後悔はどれだけ多くを経験しても、改善しなければ、一切、役に立ちません。そうです「後悔、役に立たず」なのです。そういった人が多くいます。飯高生にはそのようには、なって欲しくありません。

一方で、「努力に速効性がない」のも事実です。ですので、大概の人は努力の成果が目に見えてくるまで辛抱しきれずに、挫折し後悔するのです。氷を水に入れると自身の体積の96%を水面下に、残りの4%を空気中に出して浮かびます。氷は4%の目に見える成果のために96%の努力をして浮かんでいられると思ってください。努力とはそういったものです。私の皮肉を込めた「後悔、先に立たず・後悔、後を絶たず・後悔、役に立たず」を反面教師として、皆さんには勉強や部活動で成果が目に見えるまで、粘り強く努力してほしいと願っています。何事にも真摯に頑張る姿は美しいと思います。飯高生は潜在能力が高いですので、必ずできます。

そのほか、いつも言っていることですが、物事をなすためには3つの管理が必要でした。一つめは体調管理です。体調を崩しては頑張ろうという気力も出ません。二つめは弱気にならずに強気で頑張ろうとする精神管理です。三つめはズルズルダラダラとならないための時間管理です。体調管理・精神管理・時間管理の3管理は隠れた受験科目ですので、それも心がけてください。

結びに、明日から始まる夏休みは補習や飯高祭準備、部活動などで忙しいとは思いますが、忙しいことは時間を有効に使えるようになるチャンスでもありますので、体調を崩さずに頑張ってもらいたいと思っています。

以上、皆さんが、事故のない夏休みを過ごし、2学期も元気な顔が見られることを願い、1学期終業式の式辞といたします。

令和6年7月19日

石川県立 飯田 高等学校長 角 秀明